二段階で身につけるグラフ資料読解力

−17・18世紀のオランダとイギリスの事例から−

秋田市立御所野学院高等学校　**伊藤真司**

はじめに

大学入学共通テスト（新テスト）に対応するためには，生徒自身の「読み解く力」の向上が必要不可欠である。「主体的・対話的で深い学び」を実現するためにも，生徒が思考・判断・表現するための広範な読解力の育成が大きな課題となっている。教科書や資料集の資料を結びつけながら読み解く力は，新テストに対応するための基礎的資質となる。

本授業案は，『最新世界史図説タペストリー十七訂版』p.XI～XII「グラフから読み解く世界史② アジアとヨーロッパの経済発展」を取りあげ，オランダの経済発展と海外進出，さらに18世紀のイギリスの大西洋三角貿易を基盤とした成長に続く社会経済的変化について考えることを目的とする。グラフ読解にあまり親しんでこなかった生徒の理解を助けられるよう，KJ法を用いて生徒自身の思考を見える化しながらスモールステップで授業を行い，より多くの生徒の読解力の底上げをめざすことを目標としている。

授業の構成と展開

◉工夫する点

試行テストや模擬試験などでみられるように，生徒にはグラフをどのように読み解いたかを文章で説明する表現力が求められる。しかし，最初から文章を考えるのは難しい。そこで，キーワードを記したカードを配布し，その組み合わせによってグラフから読み取れることを言語化することで，説明する技術を身につけさせたい。そのうえで，キーワードを提示しなくても教科書や資料集から自らキーワードを見つけ出して組み合わせ，グラフから読み取れることを言語化できるようにしたい。

◉導入　5分（既習事項の確認と本時の目標の提示）

授業の目標として，これまで学習してきた17世紀から18世紀にかけてのヨーロッパの政治・経済史をふまえ，アジアとヨーロッパのつながりについて視点をかえて理解することを生徒に提示する。そのために，17世紀から18世紀にかけてのアジアとヨーロッパの経済発展についてグラフを読み解きながら，それぞれの世紀につき１か国ずつ注目して考えを深めることを本時の活動とする。

◉展開−1　20分（17世紀オランダの繁栄）

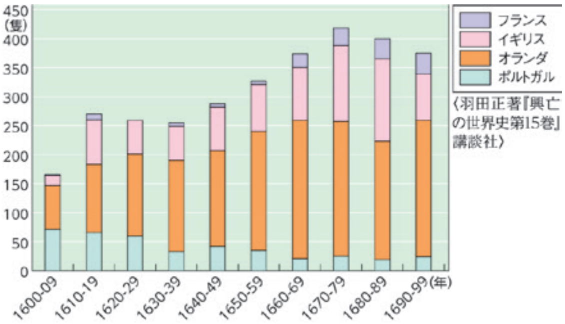

図１　東インドに向かうヨーロッパ船の数（『最新世界史図説タペストリー　十七訂版』p.XI⑤）

1. 資料の読み解き①　個人

グラフから，最も多くの船を東インドに派遣したヨーロッパの国を学習プリントに記入する。

2. 資料の読み解き②　グループ

「グラフにみられるように，なぜオランダはアジアとの貿易のために他国よりも多く船を運用したのか」と発問し，考えさせる。その際，既習事項をヒントとしながら考えるためにキーワードを記したカードを配布し，グループごとにキーワードを組み合わせて説明文を作成する。キーワードは，［香辛料貿易　バルト海貿易　連合東インド会社　アムステルダム銀行（金融）　参入　アジア］などをあげた。アムステルダム銀行をあげた

のは，若干深い内容となるが，アムステルダム銀行が1609年に設立された最初の国際銀行で，どのような貨幣での預金も受けつけ，両替を独占していたことに授業で触れていたためである。

3. 説明文の共有

作成した説明文は，個人の学習プリントに記入し，グループ代表者が発表して共有する。共有した文のうち，最も簡潔で的確に説明できていると思われるものを個人の学習プリントに書きとめる。

◉展開－2　20分（18世紀イギリスの対外進出）

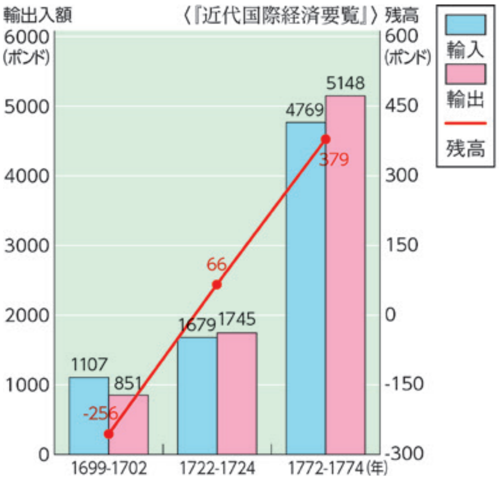

図２　イギリスの対大西洋貿易における収支（『最新世界史図説タペストリー　十七訂版』p.Ⅻ⑧）

1. 資料の読み解き①　個人

「グラフのように，イギリスの対大西洋貿易における収支がマイナスからプラスに転じたのはなぜか」と発問し，説明文に使うキーワードを資料集や教科書から集めさせる。

2. 資料の読み解き②　グループ

グループで一つの説明文を作成する。集めたキーワードは，それぞれ付箋に記入してグループ化し，説明文作成のために活用する（KJ法）。

説明文を個人のワークシートに記入する。説明文が数パターンできた場合もすべてワークシートに記入し，優先順位をつける。生徒が集めると予想されるキーワードは，［大西洋三角貿易　産業革命　パリ条約　プランテーション　黒人奴隷　金融システム　資本の蓄積］などである。

3. 説明文の共有

最も優先順位の高い説明文をグループ代表者が発表して共有する。そのなかで，最も簡潔で的確に説明できていると思われるものを個人の学習プリントに書きとめる。

◉まとめ　5分

グラフを読むときには，これまで学んできたことからキーワードを拾う作業のなかで，教科書や資料集の文章表現も参考にしながら考えることにより，グラフの示すところを理解したうえで表現できるようになることを確認する。また，17世紀から18世紀にかけてのオランダとイギリスの繁栄の構造が異なることを指摘する。

さいごに

以上の学習活動を通じて，資料集のグラフと教科書本文を結びつけられる読解力はもちろん，思考力や表現力の底上げも期待できる。グループでの作業やクラス全体で説明文を共有する際に，ワークシートに繰り返し説明文を書きとめることによって，知識と文章表現のパターンを定着させることも意図している。また，生徒が考えた説明文に優先順位をつけさせることは，多様な視点のなかでどの説明が最もグラフの示すところを的確に表現しているのかを考える機会の提供にもなる。これは，グラフの説明文を選択肢のなかから選ぶ形式の問題を考える力につながる。今後は，複数の資料を組み合わせながら読み解く授業法の構築についても考えることで，より応用的な内容に取り組むことも必要であろう。

いくつかの単元で，グラフを読み解く授業を同一の構成で展開することで，生徒自身が授業で取り組むべきことを自覚し，見通しをもって安心して学習活動に参加できるようにしたい。さまざまな時代や地域の多彩な資料を読み取り，言語化できるような技能をより多くの生徒が身につけ，新テストに自信をもって臨める力を習得することを期待する。

【参考文献】
・A.プレシ，O.フェールターク著，高橋清徳編訳『図説交易のヨーロッパ史―物・人・市場・ルート』（東洋書林，2000年）
・フィリップ・カーティン著，田村愛理・中堂幸政・山影進訳『異文化間交易の世界史』（NTT出版，2002年）